ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.3

発行日 ● 平成19年(2007)3月15日

もくじ

ごあいさつ ……1
学習院に伝わる資料と高松宮 ……1
特別展出品資料より
御爪箱／ランドセル／メダル・バッジ等 ……2・3
お知らせ ……4

学習院大学史料館第27回特別展
「新収資料　高松宮家展」

会期：2007年4月7日(土)～6月9日(土)
開室時間：平日12:00～17:00、土曜日10:00～12:00
日曜日・祝日・5月15日(火)は閉室
特別開室：4月8日(日)入学式10:00～15:00
4月15日(日)オール学習院の集い10:00～15:00

会場：学習院大学史料館展示室(北2号館1階)入場無料
協力：(財)高松宮妃癌研究基金

1.ごあいさつ

学習院大学史料館では、平成19年(2007)4月7日(土)から6月9日(土)まで、特別展覧会「新収資料　高松宮家展」を開催いたします。戦前に高松宮から学習院に寄贈された教育関係資料や近年当館が受贈した高松宮家のゆかりの品を展示し、大正期の学習院での学生生活や、普段あまり接することがない宮家の生活をご紹介いたします。

本ミュージアム・レター第3号では、この特別展覧会に出品する資料のなかから3点を選び、詳しくご紹介いたします。この機会に、当館収蔵品への理解を深めていただければ、まことに幸いでございます。　(館長　神田龍身)

2. 学習院に伝わる資料と高松宮

明治10年(1877)、学習院は皇族・華族の子弟の教育機関として創立し、戦後私立大学として再出発したのちも、戦前からの貴重な資料を受け継ぎ、学術的な立場から研究を続けてきた。

ここでは学習院と高松宮についての関係を述べつつ、現在では入手することが難しい貴重な資料がどのように収集されたのかを紹介する。

戦前の学習院歴史地理標本室は、教材として標本・地図・写真などを有していたが、大正12年(1923)の関東大震災で多くを焼失した。これを補うため、当時、学習院と同じ宮内省管轄の機関(帝室博物館等)など多方面から資料の寄贈を受けた。その資料の中には高松宮からの寄贈資料も多数含まれている。

高松宮は、明治38年に大正天皇の第三皇子として誕生し、同44年に学習院初等科に入学、大正9年中等科を3学年修了で退学し、海軍兵学校予科に進んだ。関東大震災の時、同校第3学年であった高松宮は、精力的に被災地を慰問した。その際、被災した母校の学習院を訪れ、各地で収集した標本・写真・絵葉書などを寄贈した。また、同14年海軍少尉に任官された後、軍艦で遠洋航海演習に参加し、昭和3年(1928)・同8年南洋方面での演習時に献上されたカヌー模型など民族資料も学習院へ寄贈している。

後輩たちの勉学と研究を充実させたいという高松宮の思いとともに、学習院にはゆかりの貴重な資料が多数残されている。

(野尻泰弘)

マーシャル諸島カヌー模型

3. 御爪箱

爪を切る道具を納めた漆塗りの方形の箱。皇族が幼少時（７歳頃まで）に使用する。箱は２つで１セットで、中には爪切り用の洋ハサミ、紅皿、筆、おふくさ、小形の染付蓋物などが納められている。

通常、爪切りは洋ハサミを用いる。また、ハサミは手の爪用と足の爪用を分けて使用する。高松宮の御爪箱のハサミにはそれぞれ「上」、「下」の印が付されているが、これは、「上」は手、「下」は足の意味であろう。おふくさの上で爪を切り、切り終わった後にそれぞれの指に筆で紅をつける。紅をつけるいわれは定かではないが、消毒の意味があったものと思われる。

なお、皇室では、１月７日の七草の日に、七草を入れた水に指を浸し、その年最初の爪切りを行う習慣がある。

下の２つの御爪箱は筆者が幼少時に使用したもの。高松宮所用のものと比べて染付蓋物が大きい。

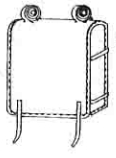
（徳仁親王）

4. ランドセル

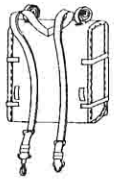
小学生の通学鞄といえば「ランドセル」だが、ランドセルを最初に通学鞄として採用したのは学習院である。ランドセルは元々は兵士が物品を入れて背負う背嚢(はいのう)のことで、オランダ語の「ランセル」(ransel＝背負い鞄)が転訛したものである。学習院では、明治18年(1885)5月より「通学途上必ス背嚢ヲ負フヘシ」と学生心得に定められ、生徒休憩所には「生徒用の書物入れはヨーロッパの歩兵ランドセルの形にするので、新しく作る場合はランドセルにすることが望ましい。製造を希望する者は申し出れば、2円60銭位で作れる」といった内容の貼紙がなされた。

高松宮は明治44年4月に学習院初等科へ入学。その際にこのランドセルを背負い、赤坂御用地内の皇孫仮御殿(こうそんかりごてん)(後の昭和天皇・秩父宮・高松宮が居住)から四谷の学習院まで、徒歩で通学した。ランドセル横には黒漆塗の筆箱がさしてある。

(長佐古美奈子)



背嚢



(学習院学生心得『学習院百年史』より)

5. メダル・バッジ等 －御活躍の軌跡－

御遺品の中には、各種の機関や団体の会員章や式典・大会参加賞・スポーツ競技会の賞品などのメダル・バッジ等が900点以上ある。中にはメダル・バッジのほかネクタイピンやバックル・ブローチ・ワッペン・リボン等も含まれ、父君大正天皇や兄君昭和天皇・秩父宮から譲渡されたと推定されるものや、喜久子妃が受けられたものもあるが、大半は高松宮宣仁(のぶひと)親王御自身がさまざまな御活動の中で受領・保存されたものである。

宣仁親王が学習院初等科に進学された明治44年(1911)の初等科運動会での1等賞メダルをはじめ、明治末年から大正前半期の資料には学習院輔仁会運動会・競漕会や各部のメダルが多く、昭和初期には事実上の御新婚旅行であった昭和5～6年(1930～31)の欧米御訪問時に各国から受けられた記念メダル等がある。軍務に服された戦時中には「支那事変従軍記章」・「金鵄勲章」や「紀元二千六百年祝典記念」等、そして戦後には皇族として役員を務められた同胞援護会等の社会事業団体や国民体育大会等の各種競技会等への御出席で受領されたバッジなどが大量に遺されている。

さらには、高松宮杯を授与されたジャンプなどの各種スキー大会・駅伝競走大会・自転車競走大会・英語弁論大会等に伴うものもあり、さながら高松宮の御活躍の軌跡を物語る資料である。

(岡田茂弘)

※敬称、敬語は省略させていただきました。ご寛恕のほどお願い申し上げます。

6.平成18年度新収史料よりご紹介

平成18年度も各所より学習院に関するものを中心に史料のご寄贈・ご寄託をいただきました。桜友会報でお呼びかけいただいた成果もあり、その件数は31件にのぼります。皆様に深く感謝の意を表するとともに、今後も引き続きのご厚誼をお待ち申し上げております。

ご寄贈をうけた史料のなかから、1点ご紹介いたします。

伝書鳩部銀杯と鳩魂碑

伝書鳩をご存知でしょうか？　現在のように通信網が発達する以前は、帰巣本能にすぐれた鳩の脚に通信文を入れた筒をつけ、「伝書鳩」として通信手段に用いました。鳩の飛翔速度は1分間に約1kmとも言われます。鳩の訓練を兼ね、伝書鳩レースが各地で行われていました。

◀鳩魂碑

▲版画　移動式鳩舎

学習院における伝書鳩部の活動は、昭和6年(1931)に陸軍からフランス製大型移動鳩舎と鳩20羽余が贈られたことから始まります。同18年には軍用鳩部と改称し、終戦とともに廃部となりました。この間亡くなった鳩魂を鎮めるために同13年に鳩魂碑が建てられ、いまも目白キャンパス内富士見会館南西にひっそりと佇んでいます。

伝書鳩部銀杯は昭和12年のものです(銀杯には皇紀を表す「二五九七」の数字が印刻されています)。同11年・12年の2年にわたり同部は関東中等学校選手権大会で連続優勝をしています。その際の記念カップと思われます。

大きさ口径4.5×高さ9.2cm

●平成18年11月6日 原 徳三氏寄贈

(長佐古美奈子)

7.刊行物と催し物のお知らせ

第52回 史料館講座「新収資料　高松宮家展　記念講演」

講師：元　中央公論社常務取締役編集局長　笠松巌氏
日時：5月11日(金)18:30～20:00
会場：学習院創立百周年記念会館1階正堂
＊入場無料・事前申し込み不要です

第53回 史料館講座

日本の伝統芸能である「能」に関する講演と実演を予定しています。

講師：能楽師　金春安明氏
日時：7月9日(月)18:30～20:00
会場：学習院創立百周年記念会館1階正堂
＊入場無料・事前申し込み不要です

ミュージアム・レター第3号
2007年3月15日発行
〒171-8588
東京都豊島区目白1-5-1
電話 03（3986）0221
内線　6569
FAX 03（5992）9219

Gakushuin University Museum of History
学習院大学史料館

● ホームページもご覧ください
http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua